別紙１　図書管理システム機能仕様書

No.	区分	機能要件
1	全般	貸出・返却・予約、図書・書誌・利用者データの入力・更新が、リアルタイムで処理され、カウンター業務や運用が効率的かつ円滑に実施可能であること。
2		書誌データについては市販ＭＡＲＣを収集し、その特性を100%使用すること。 現在使用しているＴＲＣＭＡＲＣ(Ｔタイプ)を、今回導入するシステムでも同様に活用できること。雑誌、視聴覚資料データ（ＤＶＤ）ＭＡＲＣについても対応可能であること。
3		現在、使用している資料バーコードが引き続き使用可能であること。 【使用中のバーコード（資料）】
4		現在、使用している利用者カードが引き続き使用可能であること。 【使用中のバーコード（利用者カード）】
5		ログイン時、及び、貸出／返却／予約や、利用者登録／検索等、意図的に利用者情報を参照する機能を使用時、自動的にアクセス記録の保存ができること。
6		全ての登録データについては定期的なバックアップを行い、そのデータをバックアップ装置に保存すること。なお、データは、１日１回３日分以上のバックアップを行うこと。
7		バックアップについては自動で行うとともに、手動でも容易に行えること。
8	貸出処理	利用者バーコード及び資料バーコードを読み込むことで容易に貸出処理ができること。
9		利用者バーコードの読み込み、又は利用者コードの入力によって、利用者情報及び利用者の貸出／予約情報が表示されること。予約情報は、予約中、予約取置中などの予約状況が確認できるものであること。貸出時に利用者に貸出可能な予約本がある場合は、メッセージを表示すること。
10		貸出画面から利用者の検索が行えること。

No.	区分	機能要件
11		資料バーコードの読み込みで図書情報が表示されること。
12		貸出取消が１件ごとにできること。
13		同一図書の継続貸出ができること。
14		利用者区分ごとに貸出可能冊数、貸出可能日数、継続可能回数、臨時返却日、延滞中貸出の許可／不許可、禁帯本貸出の許可／不許可が自動的に適用され、貸出可能冊数、貸出可能日数については、無制限の設定も可能であること。
15		返却日算出において返却日が休館日である場合、開館日まで返却日を延長する／しないを自動的適用できること。
16		所蔵状態が正常以外（不明等）の図書を貸出処理しようとした場合は、所蔵状態を正常に戻せること。
17	返却処理	利用者バーコードを読み込むことで容易に返却処理ができ、返却冊数が確認できること。
18		返却取消が1件ごとにできること。
19		返却時に予約図書の確認ができること。
20		利用者バーコード読込時に利用者の未返却冊数が確認できること。
21		所蔵状態が正常以外（不明等）の図書を返却処理しようとした場合は、所蔵状態を正常に戻せること。
22	蔵書検索	フリーワードの部分一致検索ができること。
23		書名検索ができること。(副書名、叢書名、書名読み、副書名読み、叢書名読み、原書名を含む)
24		著者名検索ができること。(著者名、著者名読み、個人件名を含む)
25		出版者検索ができること。
26		件名検索ができること。
27		ＮＤＣ分類検索ができること。
28		出版年検索(範囲指定も可)ができること。
29		ＩＳＢＮ検索（13桁10桁）ができること。
30		資料コード検索ができること。
31		検索結果一覧を表示し１冊ごとの詳細を表示できること。

No.	区分	機能要件
32		検索結果一覧を、書名／著者名／分類／出版年で並び替えできること。
33		検索結果一覧を印刷できること。
34		検索結果一覧画面から予約ができること。
35		新着図書リストの表示期間を任意に設定できること。
36	予約処理	予約者一覧を表示／印刷できること。
37		蔵書検索からの予約が容易にできること。
38		予約通知後、取り置き期限を任意で設定できること。
39		１件ごとの予約の取消、及び取り置き期限超過の予約の一括取消ができること。
40	督促処理	延滞者一覧を表示／印刷できること。
41	バーコード印刷	資料バーコードをラベル紙に印刷できること。
42		図書情報登録前、図書情報登録後のどちらでも、図書バーコードが印刷できること。
43		利用者バーコードをラベル紙に印刷できること。
44		上記いずれも印刷対象を任意に選択できること。
45		上記いずれも印刷開始位置を指定して無駄なく印刷できること。
46	各種帳票	書名別図書目録を表示及び印刷できること。
47		著者名別図書目録を表示及び印刷できること。
48		分類記号別図書目録を表示及び印刷できること。
49		受入区分別図書リストを表示及び印刷できること。
50		蔵書原簿を一覧表示及び印刷できること。
51	集計・統計	資料区分別蔵書統計（冊数合計／受入価格合計）を表示及び印刷できること。
52		分類別の冊数集計、分類別冊数割合を表示及び印刷、Excel形式のファイルに出力できること。また集計したいオリジナル分類を任意で設定し、冊数集計を表示及び印刷できること。
53		貸出中図書を一覧表示及び印刷、Excel形式のファイルに出力できること。

No.	区分	機能要件
54		貸出冊数、返却冊数、貸出人数等の統計情報を、日単位、曜日単位、月単位それぞれで集計し、一覧表示及び印刷できること。
55		利用者数や蔵書数、貸出処理数等の各データ~~の登録件数~~を表示及び印刷できること。
56		各種図書の一覧表には原則図書記号が表示及び印刷ができること。
57	蔵書登録	蔵書データは書誌情報と所蔵情報とに区別されていること。
58		書誌情報に付随した所蔵情報を一覧表示できること。
59		書誌、所蔵情報はＭＡＲＣデータ（ＴＲＣ－Ｔタイプ、日販、日書連等）から取り込みを行い、一括登録できること。
60		ＩＳＢＮスキャンや外部の書誌データベース（国立国会図書館など）との連携などにより、基本的な書誌データを自動取得できること。
61		書誌情報はＴＯＯＬｉから検索し一覧から選択して登録できること。
62		所蔵情報は初期値を登録すれば以後自動的に入力された状態で登録作業を行えること。
63		所蔵情報の図書コードはシステム初回設定で自動/手動登録を選択できること。
64		書誌及び所蔵情報はExcel/CSVファイルより取込及び排出ができること。
65		書誌情報は 資料コード、ＩＳＢＮ、書名、書名読み、副書名、副書名読み、著者名、著者名読み、原書名、個人件名、別置記号、図書記号、分類記号、出版地、出版者、出版年、頁数、サイズ、価格、和洋区分、資料区分、書誌作成日、書誌更新日 が登録できること。
66		所蔵情報は 資料コード、書誌番号、別置記号、資料区分、図書記号、分類記号、出版年、禁帯区分、受入日、受入区分、受入価格、所蔵状態、点検日、不明回数、所蔵登録日、所蔵更新日 が登録できること。
67	利用者登録	利用者情報は 利用者コード、利用者区分（資格）、名前、名前フリガナ、生年月日、郵便番号、住所、TEL、FAX、e-mail が登録できること。
68	その他の登録	図書分類情報を登録及び保守できること。

No.	区分	機能要件
69		受入先情報を登録及び保守できること。
70		資料区分情報を登録及び保守できること。
71		利用者区分情報を登録及び保守できること。
72		カレンダーから曜日や祝日を指定して、あるいは任意に休館日を指定できること。
73	蔵書除籍処理	不明回数がｎ回以上という絞込み検索をして除籍処理を行えること。
74		除籍移行段階として仮除籍状態を登録できること。
75		仮除籍状態の図書を、一括で除籍処理できること。
76		除籍図書及び仮除籍図書を任意の期間選択し、一覧印刷できること。
77	蔵書点検処理	ポータブルハンディスキャナを利用して蔵書点検が行えること。
78		蔵書点検中に図書が貸し出されている場合は、任意で蔵書点検済みとして一括処理できる機能があること。
79		蔵書点検後、未点検の図書は一括で所蔵状態を不明に設定できること。
80	ＷｅｂＯＰＡＣ（利用者サービス）	利用者が、インターネットを通じて、自宅やスマートフォンから、著者名や書名、キーワードで簡単に蔵書を検索できること。また、予約にも対応していること。
81		Ｗｅｂ対応ブラウザ環境については、Microsoft Edge、Google Chrome 等で快適に使用できること。
82		Ｗｅｂ対応ブラウザ環境においては、Ｗｅｂアクセシビリティの確保に努めること。また、パソコン及びスマートフォンそれぞれのデザインに最適化された画面で蔵書検索が可能なこと。